



高野商事株式会社

Uni-cle System

ユニクルシステム

日本初!! 循環型 人工芝リサイクルシステム

人工芝リサイクルシステムの歴史と経緯

- 昭和58年 ▶ 日本初の砂入り人工芝コートが登場
- 平成12年 ▶ 日本初のロングパイル人工芝コートが登場
- 平成22年 ▶ 使い古した人工芝は産業廃棄物として埋立処理されている現状
人工芝のリサイクルが必要とされる社会的背景
砂入り人工芝、ロングパイル人工芝のリサイクル事業開始
- 平成25年 ▶ 人工芝リサイクル事業の拡大
人工芝リサイクル回収量 30,000m²/年
- 平成27年 ▶ 人工芝リサイクル分離装置の新規開発
処理量が、250m²/日に対し、700m²/日に大幅UP
人工芝リサイクル回収量 100,000m²
リサイクル事業の浸透
- 平成28年 ▶ 人工芝回収量 150,000m²/年
- 平成29年 ▶ 株式会社トクヤマエムテックとの共同事業として、
リサイクル人工芝を資源とした、熱風供給装置の導入。

特許出願中

<http://www.tkn-s.co.jp/>

マークのある写真をCOCOAR2で
SCANすると動画が再生します



GET IT ON
Google Play



App Store



T.K.N. Group
Takano 高野商事株式会社

〒314-0254 茨城県神栖市太田宝山3485-1 Tel.0479-46-1121



Recycling System

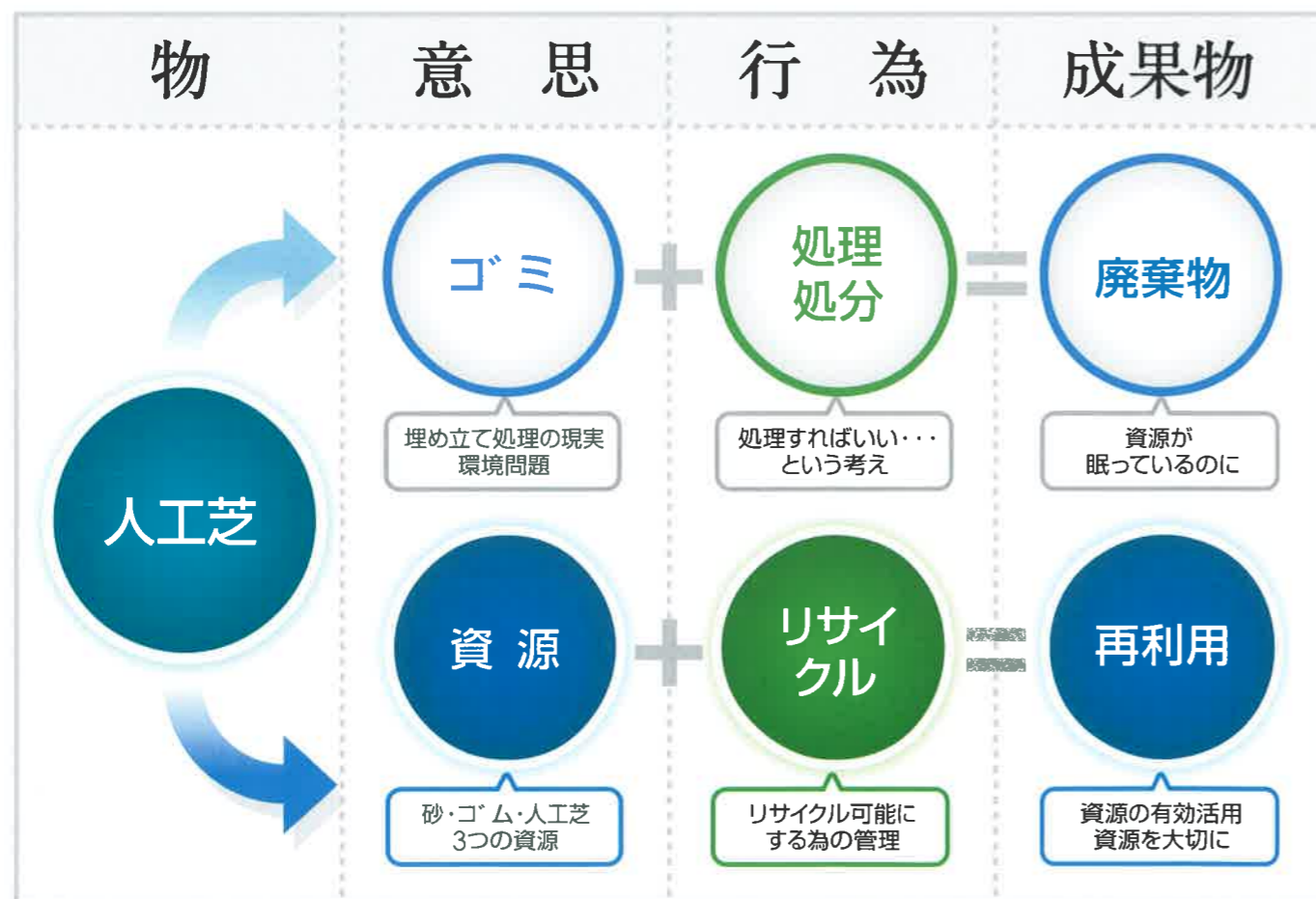
人工芝リサイクルシステムが必要な社会的背景

人工芝・砂・ゴムチップをリサイクル。資源を有効に活用。

近年、地球規模であらゆる資源の枯渇化が進んでいます。それは珪砂も例外ではありません。役割を終えて撤去された人工芝は、産業廃棄物として処理されているのが現状です。撤去される人工芝の中に、良質で再生可能な珪砂が眠っていることをご存じですか？長年試行錯誤を繰り返し開発したのが、使い終えた人工芝と充填用の砂・ゴムチップの3つに分け、それぞれを資源として有効活用する人工芝リサイクルシステムです。分離された人工芝は、防草対策の敷設材と熱源利用したサーマルリサイクルとして活用されます。また、砂は再生商品としてもう一度、人工芝グラウンドで使用されています。ゴムチップも再生品として蘇らせ、人工芝グラウンドや熱源としてのサーマルリサイクルなどに活用されています。経年経過し不要となった人工芝をリサイクルすることで、埋め立て処理の削減や地球環境保全にもつながります。

リサイクルと産廃処理の違い 産業廃棄物＝ゴミという考え方はもうダメ!!

産業廃棄物(ゴミ)を、『ただ処理すればいい』という考え方を捨て、『資源は限られている』と考えリサイクルを推進することが、世界規模で今後私たちが考えていかなければならない課題ではないでしょうか？



人工芝リサイクルシステム

産業廃棄物処理を行わないリサイクルシステムとは、人工芝や充填物(目砂やゴムチップ)を各構成材料に分類し、それらを再資源として活用します。

STEP① → STEP② → STEP③



人工芝をリサイクル可能にする為、巻き取り・検品を現地にて同時に行い、廃棄物を出さないシステム。



リサイクル工場で、分離工程・水洗分別工程を行い、再資源として蘇らせる、弊社ならではの技術。



熱風供給装置用のサーマル熱源として、珪砂の乾燥に使用する、珪砂製造メーカーだからできるシステム。

リサイクルシステムの流れ・しくみ

●人工芝巻き取り現場 → ●高野商事(株)にて検品後、有価物として受け取ります。



分離分別作業

